

一般質問

■七尾市の移住定住支援策について
魅力の発信と県内外を問わない支援策を！

質

七尾から県外だけでなく金沢などへ出ていった若い人たちが、再びふるさと七尾へ戻ってくるために、行政が支援することは極めて重要だと考える。特に子育て世帯、ファミリー層へのアピールや顧客満足度を踏まえた視点から支援策を検討すべきである。昨年度の移住・定住の目標値は未達成であり、世界遺産にも認定される自然環境、市独自の支援などの子育て環境、その魅力をもっと的確に発信し、県内外を問わない移住・定住支援策を打ち出すべきと考えるが市長の考えを伺う。

答

七尾版総合戦略における移住定住の促進の目標値の設定は、地方の人口減少や東京一極集中を是正するために、県外からの移住者を対象にしている。移住支援についても、県外からの移動が対象で県内の移動は対象としていない。日本全国で人口が減少していく中で、限られた移住希望者の奪い合いは行わず、グローバルな視野で海外からの移住受入れも視野に入れて取り組んでいきたいと考えている。魅力の情報発信については、自然あふれるこの能登の地域、七尾に移住していただけるような発信をしっかりとしていきたい。



原田 一則 議員 (灘)



一般質問

■子ども教育・子育ての充実について
 ■ゼロカーボンシティの取り組みについて
実現に向けた今後の計画は？



木戸 奈諸美 議員 (あすなろ)



道の駅のとじまのEV充電設備

質

①不登校やひきこもりは教育現場や教育委員会だけでなく、子育て支援として行政、地域も含め早急に取り組むべき大きな課題だ。サポートも行っている支援団体への新たな基金の創設についてはどう考えているか。
 ②七尾市は市内のEV充電スタンドの数が少ないとの声が聞かれる。ショッピングモールや観光施設などへのEV充電スタンドの設置が必要と思われるが、ゼロカーボンシティ実現に向けた今後の計画はどのようなものになっているのか。

答

①地域の解決すべき課題として地域づくり協議会が主体となつて実施するものであれば、ふるさと創生ゆめ基金や地域コミュニティ交付金の活用ができるので、まずは各団体が、地域の地域づくり協議会にご相談いただきたい。
 ②ゼロカーボンシティ実現に向けては、電気自動車の普及、EV充電設備の充実が必要不可欠であり、来年度策定の七尾市地球温暖化対策実行計画の中で、EV充電設備の公共施設の設置、民間事業者による設置を促す内容を盛り込みたい。

●七尾市内EV充電設備の設置数 (合計28カ所)

七尾市が設置	2カ所	道の駅「能登食祭市場」、道の駅「のとじま」
石川県が設置	2カ所	別所岳サービスエリア、のとじま水族館
民間事業者が設置	24カ所	主にホテル

※金沢市、加賀市、小松市に続く県内4番目の多さ

一般質問

■地域資源有効活用・地域活性化について
文学賞、温泉大学、温泉学会について

質

七尾市一本杉町出身の直木賞作家 杉森久英氏を顕彰し、地域の文芸活動の向上を図り、文化水準を高め、地域活性化に寄与するため、「杉森久英文学賞」「杉森久英市民文学賞」を創設してはどうか。さらに、和倉温泉を魅力あるものにし、全国に発信するために、「和倉温泉文学大賞」「和倉温泉文学賞」を設けるのはいかがでしょうか。

答

「ご提案いただいた内容は、いずれもよいアイデアだと思いが、実施する主体、目的・計画、その費用と効果など総合的に判断する必要があるので、具体的な内容をお示しいただければ幸いです。

また、和倉温泉に宿泊して、「温泉と文学」万葉集の大家持の能登巡行の軌跡をたどる「温泉と食」オーガニックな食材の活用、「温泉とスポーツ」スポーツを振興して地域の活性化に充てる」などを議論し、その成果を和倉温泉の活性化に活かすため、和倉温泉に本部を置き、温泉の研究者、専門家、愛好家で構成される高砂大学のよう「和倉温泉大学」「和倉温泉学会」を設けてはどうか。

杉森久英 (すぎもりひさひで)

- 明治45年生まれ
- 昭和6年東京大学文学部国文学科に入学、第11次『新思潮』同人となり創作を開始
- 昭和37年『天才と狂人の間』が第47回直木賞を受賞
- その他の著作『猿』、『天皇の料理番』など



瀬戸 三代 議員 (あすなろ)



和倉温泉